

# 感染症予防マニュアル

カップケーキいちかわおおの

# I .感染症の基礎知識

## 1. 感染症とは

ウイルスや細菌などの病原体が体内に侵入して増殖し、発熱、下痢、せきなどの症状が出る病気のことをいう。人から人へ感染する伝染性の感染症のほかに、動物や昆虫から、また傷口から感染するものも含まれる

感染してもほとんど症状がでずに終わってしまうものもあれば、一度症状がでるとなかなか治りにくく、時には死に至るような感染症もあります。

### 感染経路で分けると

#### 1 人から人へと感染するもの

- ① 接触して感染するもの
- ② 咳やくしゃみなどで空気中に漂った病原体を吸い込んで感染するもの

#### 2 動物や昆虫から人へ感染するもの

#### 3 土の中などにおいて、傷口などから感染するもの

#### 4 食べ物から感染するもの

### 病原体で分けると

#### 1 ウイルスによって起こるもの

#### 2 細菌・真菌によって起こるもの

#### 3 寄生虫、原虫によって起こるもの

#### 4 その他(リケッチア、クラミジアなど)によって起こるもの

## 2. 感染症の成り立ち

感染が成り立つには、体に侵入する病原体の量と、その病原体に対する抵抗力(免疫)が関係します。病原体の侵入する量が多いほど、また、体の抵抗力が弱いほど感染しやすくなります

### 感染成立の3要素



感染症を防ぐには・・・3要素それぞれへの対策が必要

1 感染源の排除

2 感染経路の遮断

感染源(病原体)を①持ち込まない②拡げない③持ち出さない

3 人間の抵抗力の向上

①栄養②休養③免疫力の向上(予防接種等)

## Ⅱ.主な感染症

### <結核>

病原体	結核菌
潜伏期	不定（半年～2年が多い）
感染経路	飛沫感染・空気感染 結核の排菌患者から出された結核菌が空気を漂って、それを吸い込むことで他人に感染する。
症状	呼吸器症状（咳・痰・血痰）、全身症状（発熱・倦怠感・寝汗・食欲不振・体重減少） ※2週間以上続く咳は結核の注意症状
感染予防	健康診断：定期的に健康診断を受ける。 換気：普段から換気を頻回に行う。 有症状者が出たら：医療機関受診、マスクの着用

### <インフルエンザ>

病原体	インフルエンザウイルス
潜伏期	1～2日
感染経路	飛沫感染
症状	38度以上の発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、鼻閉、咽頭痛、咳
感染予防	ワクチン接種（重症化防止に効果的） うがい・手洗いの励行、湿度の保持

### <感染性胃腸炎（ノロウイルスによるもの）>

病原体	ノロウイルス
潜伏期	1～2日
感染経路	経口感染
症状	嘔気、嘔吐、腹痛、下痢
感染予防	手洗い、調理器具の衛生、食品の十分な加熱、汚物処理時の使い捨て手袋使用

### <腸管出血性大腸菌感染症(O-157 など)>

病原体	腸管出血性大腸菌
潜伏期	2～8日が最も多い
感染経路	経口感染
症 状	下痢（水様性～血便まで様々），発熱，腹痛，嘔気，嘔吐 合併症：溶血性尿毒症症候群（HUS）など
感染予防	手洗い，調理器具の衛生，食品の十分な加熱，汚物処理時の使い捨て手袋使用

### <MRSA 感染症>

病原体	MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）
潜伏期	不定
感染経路	接触感染
症 状	発熱，膿状の痰など
感染予防	手洗い，うがい

### <疥癬>

病原体	ヒゼンダニ（ヒト疥癬虫）
潜伏期	約1ヵ月
感染経路	接触感染
症 状	激しい痒み（特に夜間），発疹（腹部・胸部・腋窩，手指）
感染予防	手洗い，皮膚の観察，有症状時早めの皮膚科受診

### <B・C 型肝炎>

病原体	B型肝炎ウイルス・C型肝炎ウイルス
潜伏期	B型肝炎は1.5ヶ月～6ヶ月・C型肝炎は2週間～6ヶ月
感染経路	血液感染
症 状	全身倦怠感，食欲不振，悪心・嘔吐，黄疸
感染予防	血液に触れる可能性のあるときは手袋使用，手洗い，消毒

### <レジオネラ感染症>

病原体	レジオネラ属菌
潜伏期	2～10日
感染経路	空気感染・飛沫感染

症 状	全身倦怠感，筋肉痛，頭痛，高熱，腹痛，嘔吐，下痢，意識障害
感染予防	水利用設備の清掃，定期的な点検・細菌検査の実施

## Ⅲ.感染症予防対策

「人の血液・体液や人から分泌・排泄される全ての物質（尿・痰・便・膿など）は感染症のおそれがある」とみなして対応する。

これらの物質に触れた後は手洗いを励行し，あらかじめ触れるおそれのあるときは，手袋・エプロンなどを着用する。

### 1.手洗い・・・感染症予防の基本は手洗い！

- ・ 爪は短く切りましょう。
- ・ 時計や指輪は外しましょう。
- ・ 手首の上5cm位まで十分に両手を濡らしましょう。
- ・ 洗剤を手のひらに取り，十分泡立てましょう。

### 2. 吐物処理

#### 用意するもの

手袋、マスク、エプロン、バケツ、ピューラックス、水、新聞紙、ビニール袋

① 処理する人以外が近づかないようにするとともに、窓などを開け換気を行う。

手袋、マスク、エプロンを着用する。

② ビニール袋の口を開けておきます。ビニール袋は2重にする。

ゴミ入れなどにビニール袋を入れて口を広げておく。

③ バケツにピューラックスを薄めた水を入れ、消毒液を作る。それに新聞紙を浸す。

④ 吐物を新聞紙や布で外側から内側に向けて汚れた面を織り込みながら拭き取る。

⑤ 拭き取った場所に消毒液に浸した新聞紙を10分間覆い消毒する

⑥ 吐物や拭き取った新聞等を2重に内側のビニール袋に入れしっかりと口を縛る。

⑦ 手袋やマスクエプロンを脱ぎ、ビニール袋の中に入れ、外側の袋の口をしっかりと縛る。

⑧ 手袋をして処理をしても、必ず処理の最後には石けんでよく手を洗って、うがいする。

日頃から十分な観察をして，異常の早期発見・早期

治療・2次感染予防につなげましょう。

## IV.感染症発生時の対策

○事業所内での感染症発生時の対応

